

心地よい秋空のもと稲刈り体験



十勝管内池田町立利別小学校の3～5年生28人が9月14日、同町千代田の水田で稲刈りを体験した。当日は、池田土地改良区の組合員や地元農家ら約20人の協力のもと行われ、2アールの農地で、もち米「きたゆきもち」を収穫した。(写真提供:池田町、池田土地改良区)

CONTENTS

●「令和2年度決算、3年度補正予算」などを承認 本会臨時総会	2	●新役員の紹介	4
●第7代会長理事に菊地博氏が就任	4	●総括監事に伊藤修二氏が就任	4
●令和4年度北海道農業農村整備事業の概算要求 956億円(前年度比20.1%増)を要求	5	●本会の尾田会長が退任	5
		●北海道における水土里ネット女性の会の設立へ 第1回 土地改良区委員会	6
		●北海道土地改良区運営基盤強化協議会を設置 令和3年度活動計画等を協議	7
		●第43回 全国土地改良大会 群馬大会 農業農村整備の役割を広く国民にアピール	7
		●施設の維持管理強化に向けてドローンを活用	9
		●令和3年度基礎力養成web講座を開講中!	9
		●令和4年度新規職員採用について	9

道民の財産、「水」「土」「里」を次代へ引き継ごう!

「水土里ネット北海道」は北海道土地改良事業団体連合会の愛称です

「令和2年度決算、3年度補正予算」などを承認

本会臨時総会



本会は9月14日、札幌市内のホテルで令和3年度臨時総会を開いた。写真。令和2年度事業報告及び収支決算、令和3年度補正予算を提案し、お認めいただいたほか、役員候補欠選任では、理事に菊地博氏（ながめま土地改良区理事長）、佐々木辰善氏（大雪土地改良区理事長）、西保明裕氏（帯広市土地改良区理事長）の3氏、監事に、阪口徳幸氏（新十津川土地改良区理事長）、吉田幸男氏（空知川上流土地改良区理事長）の2氏が選任された。

「必要な予算の確保に適切に対応」 尾田会長が挨拶で

冒頭、挨拶に立った尾田則幸会長は、新型コロナウイルスの感染警戒が続いている中での開催となった本総会への出席にお礼を述べた後、国費予算をめぐる情勢に触れ、「農業農村整備事業関係予算の総額は、全国ベースで、対前年比118・4%の5263億円となり、北海道分の農業農村整備事業費は、120・1%の956億円と、全国を上回る伸び率となっております。北海道に対し、配慮いただいたと考えている。年末に予定されている予算の概算決定に向けて関係機関・団体と連携を図りながら、必要な予算の確保に適切に対応していく」と述べ、会員団体の一層の支援・協力を求めた。

また、北海道土地改良区理事長の任期満了に伴い、土地連会長理事を退任することについて、「平成30年5月に会長に就任以来、3年4ヶ月の間、会員、関係機関・団体の皆様から多くのご指導、ご支援をいただき、今日まで、務めることができました。北海道が我が国最大の食料供給地域としての役割を果たしていくためには、その礎となる農業生産基盤の計画的な整備が不可欠であり、土地連に課せられた使命、期待は今後益々大きくなる。今後も、新会長の下、土地連が更なる役割を発揮していただきたい」と期待を寄せた。

来賓挨拶では、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員、道開発局農業水産部の細井俊宏部長、道農政部農村振興局の芳賀是則局長が挨拶に立ち、本会事業の取組と農業農村整備の円滑な推進、地域農業の振興・発展に期待を寄せた。

議事では、恵庭土地改良区の大滝崇夫理事長を議長に選出し、土地改良事業に関する技術的な指導や援助・協力、土地改良事業関係の金融改善などの令和2年度事業報告とそれに基づく63億8千2百万円の収支決算、当期一般正味財産2億1千8百万円増となる財務諸表および、5億8千万円を追加計上する3年度補正予算を原案とお認めいただいたほか、土地改良法施行規則の一部改正による議事録の押印不要などに伴う定款、規約の変更などを承認した。

また、理事及び監事の欠員に伴う補欠選任では、理事に空知支部から菊地氏、上川支部から佐々木氏、十勝支部から西保氏、監事に空知支部から阪口氏、上川支部から吉田氏を選任した。最後に、農業農村整備事業の推進等を求める決議で、「農業農村整備事業関係の当初予算をはじめとした予算総額と新規採択枠を確保すること」など6項目の要望事項を芦別市土地改良区の中住昭理事長が朗読し、満場一致で採択。実現に向けて総力を結集した。

農業農村整備事業の推進等を求める 決 議

北海道の農業は、積雪寒冷な気象など厳しい生産条件を、農業者のたゆまぬ努力と農業生産基盤整備の積み重ねにより克服し、本道の社会・経済を支える基幹産業として発展を続け、我が国の食料の安定供給に重要な役割を担ってきた。

しかしながら、近年、農村地域の高齢化の進行や人口減少、国際化の進展、さらには、大規模な自然災害の相次ぐ発生や新型コロナウイルスを契機とした生産・消費の変化など、我が国の食料・農業・農村をめぐる情勢は大きく変化している。

このような中で、国は、本年3月に「新たな土地改良長期計画」を閣議決定し、農業の成長産業化や農業・農村の強靱化に向けた農業農村整備事業を計画的かつ効果的に実施するとともに、5月には、「みどりの食料システム戦略」を策定し、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立の実現に向けて、環境負荷軽減やスマート技術の推進などの具体的な政策を打ち出すこととしている。

大規模で専門的な農業が展開されている本道の農業・農村が引き続き発展し、国民への安全・安心な食料の安定供給に一層貢献していくためには、飛躍的な生産性の向上が期待できるスマート農業の推進や、高品質・高収益な作物の生産拡大、農村地域の防災・減災を進めていく必要があり、その礎となる農地の大区画化や排水改良、農業水利施設の整備・保全などの着実な推進が不可欠である。

よって、我々は、現下の農業・農村をめぐる状況を踏まえ、次の事項を総意として決議し、その実現が図られるよう強く国に要望する。

記

- 一、国際化の進展に対応した力強い農業の展開や、スマート農業の加速化に向けて、農地や農業水利施設、農道の整備・保全など、多様な地域のニーズを踏まえた生産基盤整備の計画的な推進に必要な当初予算をはじめとした予算総額と新規採択枠を確保すること
- 一、農業水利施設の長寿命化・耐震化やICTなどの新技術を活用した戦略的な保全管理、集中豪雨による洪水・湛水被害防止対策など、農業・農村の強靱化対策を着実に推進すること
- 一、農業用ダムや水田などの雨水貯留機能を活用した流域治水の取組を推進するとともに、関係する施設等の管理者の過度の負担とならないよう配慮すること
- 一、改正土地改良法に基づき作成する貸借対照表の効果的な活用など、土地改良区の運営基盤の強化に資する支援の充実を図ること
- 一、農地や水路、農道等の保全活動の適切な実施や、生産条件が不利な地域の農業生産活動が維持できるよう、多面的機能支払及び中山間地域等直接支払に必要な予算を確保するとともに、地方負担に対して十分な財政措置を講じること
- 一、TPP11や日EU・EPA、日米貿易協定などの国際化が進展する中、本道農業・農村が持続的に発展するよう、引き続き、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づき、万全な対策を講じること

右決議する。

令和3年9月14日

北海道土地改良事業団体連合会 令和3年度臨時総会

第7代会長理事に

菊地 博氏

(ながぬま土地改良区理事長)

が就任



会長理事 **菊地 博**
(ながぬま土地改良区理事長)

本会は、令和3年度臨時総会終了後、理事22名による会長理事の互選を行い、菊地博氏（ながぬま土地改良区理事長）が選任され、9月19日付で第7代会長理事に就任した。

菊地会長は、平成7年に合併前の長沼土地改良区理事長に、平成22年の合併後も引き続き理事長に就任。平成27年に本会監事に就任以来、本会総括監事、農業農村整備推進委員会副委員長の要職に就き、本会の会務運営と、地域はもとより全道的な視点から農業農村整備事業の推進に尽力してきた。

互選会終了後、就任挨拶に立った菊地会長は「会員の負託に応えるため、会務運営、事業の円滑な推進に、役職員一丸となって取り組んでみたい」と決意を述べ、支援・協力を求めた。

新役員の紹介

9月14日に開催された本会臨時総会で役員の補欠選任が行われ、理事に菊地氏と、佐々木辰善氏（大雪土地改良区理事長）、西保明裕氏（帯広市土地改良区理事長）が就任。監事に阪口徳幸氏（新十津川土地改良区理事長）、吉田幸男氏（空知川上流土地改良区理事長）が就任した。就任日は、佐々木、西保両理事と、吉田監事が9月14日付、阪口監事が9月19日付。新たに就任した会長理事以外の役員は次の通り。

総括監事に

伊藤 修二氏が就任

令和3年度臨時総会終了後、総括監事の互選を行い、伊藤修二氏（石狩土地改良区理事長）が9月19日付で就任した。



伊藤総括監事は、平成13年に合併前の北生振土地改良区理事長に就任し、平成30年に本会監事に就任。以来、本会の会務運営に尽力してきた。



理事 **西保 明裕**
(帯広市土地改良区理事長)

西保氏は、令和3年帯広市土地改良区理事長、令和3年に本会十勝支部副支部長に就任。



理事 **佐々木 辰善**
(大雪土地改良区理事長)

佐々木氏は、令和2年大雪土地改良区理事長、令和3年に本会上川副支部長に就任。



監事 **吉田 幸男**
(空知川上流土地改良区理事長)

吉田氏は、平成25年に空知川上流土地改良区理事長、令和3年に本会上川支部理事に就任。



監事 **阪口 徳幸**
(新十津川土地改良区理事長)

阪口氏は、平成30年に新十津川土地改良区理事長、令和3年に本会石狩支部副支部長に就任。

本会の尾田会長が退任

3年4ヶ月にわたり
会務運営に尽力



尾田会長は、平成25年9月に北海道改良区理事長に就任。以来、地域の農業生産基盤の

整備と土地改良区の健全な運営に務め、国営かんがい排水事業をはじめ各種土地改良事業を積極的に推進した。平成26年3月から本会理事に就任。以来、本会管理運営体制強化委員会委員長、農業農村整備推進委員会副委員長などの要職に就き、平成30年5月からは会長理事として3年4ヶ月にわたり本会の会務運営と土地改良事業の推進に努めてきた。

この間、農業農村整備事業国費予算の確保をはじめ、平成30年には北海道胆振東部地震による農業被害の復旧などに尽力した。また、これまでの功績が評価され、土地改良事業功績者表彰で令和元年に農林水産省農村振興局長表彰、本年、農林水産大臣表彰を受賞した。

令和4年度北海道農業農村整備事業の概算要求

956億円(前年度比20.1%増)を要求

農業農村整備、農地集積・集約化、担い手確保・経営継承の推進

農林水産省は8月24日、令和4年度農林水産予算概算要求をまとめた。農業農村整備関係予算の総額は、3年度当初予算比18.4%増の5263億円を要求。農業農村整備事業として、同比18.4%増の3946億円、農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分として、同比16.5%増の693億円などを計上した。

北海道分の農業農村整備事業要求額は、同比20.1%増の956億円。また、農山漁村地域整備交付金では、農業、水産、林務の合計で同比16.5%増の109億円を計上している。

また、国において、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に係る経費、「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費については、予算編成過程で検討するとしている。

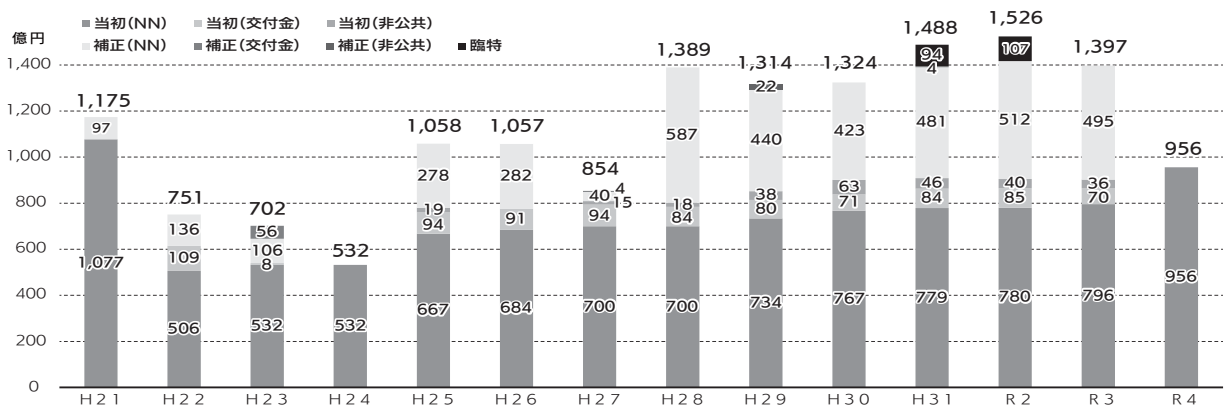
本会としては、今後の情勢を注視しつつ12月末の概算決定に向けて、農業農村整備事業の円滑な推進に必要な予算が確保できるような的確な対応を行っていく。

競争力強化・国土強靱化のための農業農村整備の計画的な推進

農水省農村振興局では、農業農村整備事業の柱を農業競争力強化対策と国土強靱化対策として、①農業の成長産業化に向けた農業生産基盤整備②農業水利施設の戦略的な保全管理、防災・減災対策③農村整備一を掲げている。

①では、農地の大区画化や汎用化・畑地化、畑地かんがい施設の整備の基盤整備を実施し、農地中間管理機構と連携した担い手への農地集積や農業の高付加価値化を推進するほか、パイプライン化やICTの導入等により、新たな農業水利システムの構築等を推進。②では、農業水利施設の更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、農地の湛水防止対策、ため池の防災・減災対策、農業用ダムの洪水調節機能強化等を推進。③では、集落排水施設や農道、地域資源利活用施設の整備を推進している。

農業農村整備事業予算の推移（北海道分）



農林水産予算概算要求の概要

1 農業農村整備事業

(単位:億円、%)

区分	年度 3年度 予算額	4年度 要求・要望額	
		対前年度比	
全国	3,333	3,946	118.4
北海道	796	956	120.1

※ 計数は直轄事業と補助事業を合わせた金額

2 農山漁村地域整備交付金

(単位:億円、%)

区分	年度 3年度 予算額	4年度 要求・要望額	
		対前年度比	
全国 (うち農業農村整備)	807 (595)	940 (693)	116.5 (116.5)
北海道	94	109	116.5

※ 農山漁村地域整備交付金は補助のみ

※ 計数は農業農村整備、森林整備、水産基盤整備を合わせた金額

3 【非公共】農地耕作条件改善事業案

(単位:億円、%)

区分	年度 3年度 予算額	4年度 要求・要望額	
		対前年度比	
全国	518	625	120.6
北海道	36	未定	—

※ 農地耕作条件改善事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業、農山漁村振興交付金(NN分)を含む

※ 北海道の3年度予算額は、4月までに配分された金額

※ 現地点で、北海道への4年度 要求・要望額の配分額は未定

農業農村整備関係予算の総額

(単位:億円、%)

区分	年度 3年度 予算額	4年度 要求・要望額	
		対前年度比	
全国	4,445	5,263	118.4

○計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

○デジタル庁計上の政府情報システム予算を含む。

事業着手4地区を要求

4年度国営事業の北海道における新規着手地区では、国営かんがい排水4地区を要求。また、調査着手地区として3地区を要求している。

■事業着手要求地区

【国営かんがい排水】4地区

- ▽神竜二期Ⅱ旭川市・深川市・秩父別町
- ▽篠津運河中流Ⅱ江別市・当別町・新篠津村

- ▽十勝川左岸二期Ⅱ音更町・清水町・芽室町

- ▽斜里飽寒別Ⅱ斜里町

■調査着手要求地区

【国営かんがい排水】2地区

- ▽漁川右岸Ⅱ恵庭市、千歳市

- ▽北斗Ⅱ北斗市

【国営農用地再編整備】1地区

- ▽富良野南富Ⅱ富良野市、南富良野町



北海道における水土里ネット 女性の会の設立へ

国費予算などを情報提供 第1回土地改良区委員会

本会は9月30日、令和3年度第1回土地改良区委員会(委員長Ⅱ河村康英・渡島平野土地改良区理事長)を開いたⅡ写真。令和4年度農業農村整備事業に関わる国費予算の概要等について情報を共有したほか、水土里ネット女性の会の設立などについて審議した。

委員会には、委員9名のほか、本会の菊地博会長、加藤聡専務、本間勤常務、道農政部農村振興局農業施設管理課の川畑恭章指導管理担当課長、澁木圭介課長補佐が出席。

冒頭、挨拶に立った菊地会長は「9月19日付で土地連会長を拝命した。前・尾田会長の後を引き継ぎ、会員の共同利益の増進と負託に応えるため、関係機関等と連携を図りながら、本会の会務運営に全力で取り組んでいく。委員の皆様には、農業農村整備の計画的な推進や土地改良区の運営基盤の強化等に向け、引き続きご指導・ご支援をお願いする」と述べた。

次いで、河村委員長は令和4年度国費予算概算要求について、「北海道分の農業農村整備事業費は、120.1%の要求と、全国を上回る伸び率となっており、北海道開発局、北海道はじめ、関係機関の皆様のご指導・ご支援があつてこそと、感謝を申し上げる」と述べ、予算確保に向けた、引き続きの支援・協力を求めた。

続いて、欠員となっていた副委員長1名について互選が行われ、榎本好男委員(てしおがわ土地改良区理事長)が選任され、就任した。榎本副委員長は挨拶に立ち、今後の委員会運営に対する協力を求めた。

議事では、北海道における水土里ネット女性の会の設立について、全国

における設立状況等を提示し、活動内容や設立に向けたスケジュールなどの協議を行い、年度内に設立することとした。

また、道から令和4年度の農業農村整備事業関係予算の概要と、新たに設立された北海道土地改良区運営基盤強化協議会について情報提供されたほか、土地改良区の財務管理強化対策として、複式簿記会計導入に向けた巡回指導の実施状況等や、土地改良区指導監査の令和4年度実施に向けたスケジュール案、資産評価データ整備事業の進捗状況等について確認した。

当日出席した委員長、副委員長以外の委員は次の通り（敬称略）。

- （委員）
▽古谷陽一（篠津中央土地改良区理事長）
▽横井信一（深川同）
▽佐々木辰善（大雪同）
▽酒井誠一（狩場利別同）
▽阿部修一（安平町同）
▽西保明裕（帯広市同）
▽荒木俊彦（オロロン同）

北海道土地改良区運営基盤強化協議会を設置

令和3年度活動計画等を協議

農林水産省、北海道、本会で構成する北海道土地改良区運営基盤強化協議会が、7月28日に設置され、同日、第1回協議会を開いた。

本協議会は、本年3月に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」に基づき、土地改良区の運営体制の強化に向けた支援を行うため、北海道農政課が事務局長となり設置。

会議はリモートにより開催し、挨拶にたった道農政課の川畑指導管理担当課長は「土地改良施設の維持管理や更新を的確に行うため、道、国、土地連、市町村が連携協力して土地改良区の支援にあたらなければならない」と述べ、協力を求めた。

議事では、本協議会会則、令和3年度活動計画について協議。活動計画では、複式簿記の推進、期末一括仕訳、女性理事登用推進の指導・助言など、改良区の運営基盤の強化に向けた支援や、男女共同参画に向けた取組を行うこととした。

本協議会の構成員は次のとおり。

- （農林水産省農村振興局）土地改良企画課課長補佐、同課組織企画係長
（北海道農政課）農業施設管理課指導管理担当課長
（本会）参与、参事、総務企画部長



農業を魅力ある産業としていくためには、土地改良事業が果たす役割の重要性を全国にアピールするとともに、水士里ネットが目指す道しるべについて語り合う場として、「鶴舞う形 群馬の大地 水士里の未来へ」ここから羽ばたいて」をスローガンに、第43回全国土地改良大会が10月6日、新型コロナウイルスラインにより実施された。

土地改良事業功績者表彰では、本道からの尾田則幸前会長をはじめ3氏が受賞。また、来年の大会が沖縄県で開催されることを紹介され、大会旗が引き継がれた。



今大会は全国水士里ネットと水士里ネット群馬が主催し、農水省、群馬県等が後援。

開会では、はじめに開催県の水士里ネット群馬の熊川栄会長、主催者の全国水士里ネット二階俊博会長から挨拶

がされ、続いて、大会を後援した群馬県の山本一太知事、高崎市の富岡賢治市長から歓迎のことは、そして、農林水産省の金子原二郎大臣（代読）、群馬県選出の小淵優子衆議院議員、全国水士里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員から祝辞が述べられた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰45名に表彰状が授与され、本道からは尾田則幸氏（本会前会長理事）が農林水産大臣表彰、曾根興三氏（別海町長）が農林水産省農村振興局長表彰、古谷陽一氏（篠津中央土地改良区理事長）が全国土地改良事業団体連合会長表彰の荣誉に浴した。

基調講演では、農水省農村振興局の安部伸治次長、講演では、全国水士里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員がそれぞれ土地改良をめぐる動きについて説明した。

大会宣言は、群馬県立吾妻中央高等学校の關空翔さんと黒岩梓紗さんが朗読。「私たちには今ある美しい農村を守っていく義務がある。先人達から引き継いだ「水・土・里」の農村の宝を、後世にもしっかりと引き継いでいく」と高らかに宣言した。

式典の最後には、次期大会が沖縄県で開催されることが報告され、大会旗の引き継ぎが行われた。

尾田前会長が農林水産大臣表彰を受賞

曾根氏が農林水産省農村振興局長表彰 古谷氏が全国水土里ネット会長表彰

第43回全国土地改良大会式典の席上にて行われた土地改良事業功績者表彰で、本道から、尾田則幸前会長が農林水産大臣表彰、根室管内別海町長の曾根興三氏が農林水産省農村振興局長表彰、石狩管内篠津中央土地改良区理事長の古谷陽一氏が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した。



尾田氏は、平成25年9月に北海道土地改良区理事長に就任。以来、地域の農業生産基盤の整備

と土地改良区の健全な運営に務め、国営かんがい排水事業をはじめ各種土地改良事業を積極的に推進した。国営事業では、かんがい排水事業「幌向川二期」地区、農地再編整備事業「美唄」地区ほか、道営経営体育成基盤整備事業では、33地区、6,190haに及ぶ農地の区画整理（大区画化）や用排水改良等の整備を推進し、地域農業の

発展に多大な貢献をされてきた。平成26年3月から本会理事、30年からは本会会長理事に就任し、全道的な立場から本道の農業・農村の発展のため農村整備事業の推進に尽力された。



曾根氏は、平成28年6月に別海町長に就任。以来、国営かんがい排水事業別海西部地区、同

別海北部地区をはじめ、各種農業農村整備事業を積極的に推進され、農業生産力の向上と農業経営の安定に多大の貢献をされている。また、日本型直接支払制度を積極的に活用。活動計画に基づき地域ぐるみの活動を実施し、国土保全と自立的な質の高い地域活動を定着させ、地域農業・農村の振興発展に寄与した。平成28年8月から本会理事に就任し、全道的な立場から本道の農業・農村の発展のため農業農村整備事業の推進に尽力されている。

大会宣言

私たちが住む群馬県は、大空を舞う鶴の形に似ていることから「鶴舞う形の群馬県」として広く県民に親しまれてきました。赤城山・榛名山・妙義山の上毛三山を始めとする雄大な山々から発した水は、流域面積日本最大の「坂東太郎」の異名を持つ利根川に集まり、関東平野を潤しています。

豊富な水、標高差のある大地、長い日照時間などの豊かな自然により、キャベツ・ナス・キュウリ・ホウレンソウ・コンニャクなどの野菜、リンゴ・梨などの果樹、上州牛・上州豚といったブランド肉、本州一の生産量を誇る小麦など、一年を通じ多彩で多様な農畜産物が生産されています。

いま、全国の農村では、都市に先駆け高齢化や人口減少が進み、農地、農業用水等の管理や、営農の継続が困難になるなどの課題に直面しています。また、令和に入ってから、元年の東日本台風を始め、2年・3年の豪雨など、大きな災害が相次いでいます。そしてパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症の影響により、経済、社会、人々の生命や生活が脅かされ、食料安全保障の確立が強く求められています。

一方、令和3年3月に新しい時代に向け、新たな土地改良長期計画が閣議決定され、生産基盤の強化による農業の成長産業化、地方移住など農村に人が住み続けるための条件整備、そして頻発化・激甚化する災害に対応した、排水施設整備やため池の防災対策による農業・農村の強靱化を目標とし、「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、持続的に発展する農業と多様な人が住み続けられる農村の実現を目指しています。

私たち上州人は、昔から仲間達と糸をつむぎ、鶴舞う形のこの大地を耕してきました。

私たちに、今ある美しい農村を守っていく義務があります。

先人達から引き継いだ「水・土・里」の農村の宝を、後世にもしっかりと引き継いでいきます。

本日は、全国の仲間と共に歴史をつむぎ、新しい時代の土地改良へ向け進んでいくことを、「鶴舞う形 群馬の大地 水土里の未来へここから羽ばたいて」のスローガンのもと、ここ上州の地、群馬から高らかに宣言します。

令和3年10月6日

第43回全国土地改良大会（群馬大会）



古谷氏は、平成26年4月に篠津中央土地改良区理事長に就任。地域の農業生産基盤の整備

と土地改良区の健全な運営に努めている。国営かんがい排水事業「篠津中央二期」地区をはじめ、道営の各種事業では、16地区、3,536haに及ぶ農地の区画整理（大区画化）や用排水改良等の地域農業の発展に多大の貢献をされている。平成31年4月から本会理事、石狩支部長に就任し、全道的な立場から本道の農業・農村の発展のため農業農村整備事業の推進に尽力されている。



施設の維持管理強化に向けてドローンを活用

国は土地改良区が管理する農業水利施設の維持管理強化を図るため、令和3年度に「地理情報システム高度利用推進事業」を創設。同事業は、農業水利施設の日常管理にドローン等の新技術を活用して、撮影したデータ等を地図情報システムへ蓄積・共有を行い、施設管理の省力化・高度化を図ることを目的としている。

本道においては、北海道が事業主体となり、北海道土地改良区の協力のもとに、ダムの土砂堆積状況や開水路の施設変状等の調査に取り組んでおり、本会では、これら調査や地図情報システムへデータ登録等の作業協力を行っている。

本会としては、ドローンを活用することで、災害時の被災調査や現地測量等に迅速な対応が可能となるほか、農業水利施設の日常管理にも有効な手段になるものと考え、撮影データと地上測量との精度や効率等の比較検証を進めるとともに、適正な運用に向けて撮影目的に応じた飛行マニュアルの作成を進めることとしている。

令和3年度基礎力養成Web講座を開講中！

会員支援事業の一環として、これまでの「農業土木技術者育成講座」に加え、技術者に必要な基礎力の向上を目的とする「基礎力養成web講座」を10月から開講しています。web講座では、「実務に役立つ水利計算の基礎演習」を左記の通り実施しますので、ぜひご参加ください。

- 管水路（パイプライン）の水利計算
 - ・ 10月29日（金）
 - ・ 11月5日（金）
- 開水路の水利計算
 - ・ 11月12日（金）
 - ・ 11月26日（金）
 - ・ 12月3日（金）
- オリフィス、せき（堰）、ゲートの水利計算
 - ・ 12月10日（金）
- 非常常流
 - ・ 12月24日（金）

【お問い合わせ先】

北海道土地改良事業団体連合会
事業部 事業管理室
TEL 011(206)8026

令和4年度新規職員採用について

(令和3年10月10日現在)

◆ 募集職種 技術職（一般土木、農業土木等）

◆ 求める人材

- 新卒採用
令和4年3月31日に大学・専門学校・高校卒業見込みの方
- 職務経験がある方（経験者）
年齢不問、土木施工管理、土木設計の経験がある方
- 職務経験がある方（未経験者）
30歳未満の方、土木系（農業土木、一般土木）を専攻した方

詳細は本会総務企画部総務課（TEL 011-221-2292）までお問い合わせください。



農村、そこには人びとの生活と生産の物語があります。
その物語を支える自然、農地、そして多くの施設があります。その息づく風景を一コマの写真として…

第36回
「豊かな農村づくり」写真展

北の農村 フォトコンテスト

作品募集期間
令和4年4月末日まで

募集要項

応募期限 令和4年4月末日まで
応募資格 どなたでもご自由に応募頂けます。
未発表作品（他のコンテストを含め過去に応募した作品は審査対象外）に限ります。

賞

- 金賞3点（5万円）
- 銀賞3点（3万円）
- 銅賞5点（2万円）
- 協会賞3点（2万円）
- 特別賞
- 園場景観賞1点（2万円）
- 作物の花賞1点（2万円）
- 佳作若干（1万円）

審査員 梅田安治（北大名誉教授・農村空間研究所代表）
谷口勲夫（写真家）
中井和子（環境デザイナー）
森久美子（作家） ほか

入賞発表規定 令和4年6月1日（協会ホームページに掲載）
（プリントでの応募の場合）

- 四つ切り（25.4cm×30.5cm）又はA4（21.0cm×29.7cm）サイズで郵送してください。

（画像データでの応募の場合）

- JPEG形式で、四つ切り又はA4サイズで印刷可能な解像度データをCD-R等に保存の上、郵送してください。尚、画像加工した写真は応募できません。

（注意事項）

- 撮影日は令和2年1月1日（2020年）以降のものに限ります。

- 撮影場所は北海道内に限ります。
- 応募枚数5作品までとします。（組写真は不可）
- 作品に人物が写っている場合、その肖像権の侵害などの責任は負いかねます。応募に際しては必ず本人の了承を得て下さい。
- 組写真及び規定サイズ（四つ切り又はA4サイズ）以外の写真は審査の対象から外れますのでご注意ください。
- 出品作品には作品の表題・撮影場所・撮影意図（コメント）・撮影年月日と撮影者の氏名・郵便番号・住所・年齢・職業・電話番号を協会ホームページの募集ポスター又は公募チラシの裏面様式に基づき記入し、写真裏面中央に添付して下さい。（画像データで応募される場合は、画像毎にわかるように応募票を提出して下さい。）
- 応募作品の著作権は主催者側に帰属し、作品の返却は致しません。

作品の提出先
一般社団法人 北海道土地改良設計技術協会
広報委員会宛
〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 NDビル8F
Tel. 011-726-6038
ホームページアドレス <http://www.aeca.or.jp/>

主催：（一社）北海道土地改良設計技術協会
後援：北海道開発局

★ご応募いただいた皆様全員に御礼としまして、過年度の応募作品より作成した「2023年 北の農村カレンダー」を、無料進呈させていただきます。

第35回「豊かな農村づくり」写真展 令和3年9月2日（休）3日（休）4日（出）場所／JR札幌駅西コンコースイベント広場

第35回「豊かな農村づくり」写真展 応募作品 1.夕暮れに麦（大空町女満別）、2.七色の田（中富良野町）、3.薄暮の牧草ロール（江別市）、4.朝焼けの丘（旭川市就実の丘）、5.眺望の春（北斗市）



第36回 北の農村
作品
大募集
フォトコンテスト